

台湾産アーウィンマンゴーが日本で記録的な価格

[Taiwan News](#) 2025年7月16日

【台湾ニュース】東京・新宿区のスーパーマーケット・クイーンズ伊勢丹で、台南市産のアーウィンマンゴーが1個4,320円(874台湾ドル(30米ドル))という記録的な値段で売られ、この品種の日本での最高値を記録した。鮮やかな赤い果皮と丸々とした形、甘いトロピカルな香りが特徴のこのマンゴーは、現在、日本全国の22店舗のクイーンズ伊勢丹で販売されている。中央通訊社(CNA)及び三道門ホテルによると、昨年、同系列の3店舗で初めて導入されたこの果実の販売の拡大は、消費者の肯定的な反応を受けたものである。

台南市のアーウィンマンゴー栽培は、地元農家の鄭罕池^{ティエンホンチー}氏が台湾で初めてこの品種の栽培に成功した玉井区^{ユージン}で始まった。この地域の盆地のような地形、水はけの良い砂質土壌、豊富な日照、23.7℃の年平均気温が、理想的な生育条件を作り出している。玉井区のマンゴーの最盛期は6月上旬から7月までである。インシーズン(価格サイト)によると、このマンゴーの台湾での今週の推定小売価格は約201台湾ドル/kgである。

台湾の駐日代表である李逸洋^{リーイーヤン}氏は、このマンゴーが日本的高级小売店の1つに参入したことで、台湾の農産物のイメージが高まると述べ、台湾と日本は密接な農産物貿易関係を維持していると付け加えた。台湾は昨年、9億7,800万台湾ドルの生鮮果実を日本に輸出し、これは台湾の果実輸出全体の40.7%を占めた。日本は台湾にとって生鮮果実の最大の海外市場である。

執筆者: シャーロット・リー (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

エジプト オレンジ果汁濃縮工場の出現で生鮮果実の供給に異変

[FreshPlaza](#) 2025年7月17日

エル・テリアック農園の輸出マネージャーであるアムガド・ネッセム氏によると、今年エジプトにオレンジ果汁濃縮工場が出現したことで、輸出可能な生鮮オレンジの供給が大幅に阻害され、輸出業者と国内市場に不利益をもたらし、一方、生産者には利益をもたらした。(以下「」は同氏の話)

「以前は地元の市場で農産物を販売していた小規模農家が、今では工場に販売している。国内市場での供給不足と濃縮工場からの需要の増加が相まって、国内のオレンジ価格が上昇し、わずか数日で昨シーズンの2倍になった。これにより、卸売市場の価格が劇的に上昇した。」

「輸出市場でも同様で、シーズン中の長い期間にわたって、輸出できたはずの生産物のかなりの部分、特に均一に標準化されていないオレンジ(カテゴリーB/C)を工場が吸収する。これにより、生産物の獲得をめぐって工場と輸出業者の間で競争が生まれた。」

同氏は、この状況で得をしたのは生産者であると説明する。「この新しい市場構成により、低品質のオレンジに対する安定した需要が生まれ、以前はさばけなかった量の販売が容易になった。濃縮工場の価格が高く、輸出に伴うリスクを軽減するのにも役立つため、生産者達は生産物を工場に売りたいことが多い。」

「輸出市場の中で、ヨーロッパ市場はエジプト産オレンジの供給の混乱の影響を最も受けており、入荷量の減少と価格の高騰が見られる。」同氏によると、興味深いことに、エジプト産オレンジの価格が安い湾岸市場では、影響を受けていないようである。「サウジアラビアに生鮮オレンジを輸出する企業は、販売手数料や価格圧力による損失など、常に困難に直面してきた。しかし、この市場は安定している。湾岸市場では厳格な規格がないため、ヨーロッパの輸出基準を満たさない作物、特に残留農薬の問題を抱える作物の行先となっている。たとえ多くの輸出業者が手数料制度のある湾岸諸国に輸出する際に毎シーズン損失を被ったとしても、貿易は止まらず、供給の混乱に耐えることができる。」

「弊社では、この新しい状況を緩和する方法を見つけるために、取引先と常に連絡を取り合っている。影響を受けたバイヤーとは、展示会等(詳細省略)の場で相談したい。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)